

秋-4 その時、どうする？

1. 活動の目的

- ①地震による災害の知識を深め、防災意識を高める。
- ②地震が起きる前に必要な準備と、起きた後の行動について考える。

2. 準備するもの (☆は教材ファイルにあるもの)

- ☆DVD『地震！その時どうする？』
 - ・モニター
- ☆震度階級表
- ☆持ち出し品カード (3セットあり)
- ☆作業シート (2~3人のグループ活動。各グループに1枚コピー)
- ☆準備しておきたいものリスト (人数分コピー)
- ☆防災カード (人数分+希望者には家族分にも配布できるよう多めに。)
- ☆防災ハンドブック (吹田市発行) 日本語、英語、中国語、韓国語版

3. 活動の手順

留：留意点 **参**：参考 **発**：発展的活動

活動1

DVD

震度階級表

- ・地震について各自が持っている知識を思いつくままに出し合ってから、DVD (チャプター2の1:30~2:20) で揺れの様子を観る。感想などを話し合う。
- ・「震度」「マグニチュード」について各自が持っている知識を出し合ってから、違いを説明。震度階級表を見せて説明。
 - 発** 必要であれば「震源」「津波」等も説明。
 - 参** 防災センター (阿倍野) に、地震の揺れを体験できる施設がある。

活動2

持ち出し品カード、作業シート

- ・「備えあれば憂いなし」意味について話す。また学習者の国にも同様の言葉があるかどうか聞く。日本人なら誰でも知っているので、覚えてもらえると良い。
- ・2~3人のグループを作る。各グループに持ち出し品カード1セットと作業シート1枚を配る。
- ・グループで話し合っ、カードの中から必要が高いと思うものを5つ選んで、優先順位の高いものから作業シートに並べる。カード以外に必要なと思うものがあれば、書いてもいい (例・新聞紙、など)。
- ・作業シートに並べた物の名前を書き入れる。名前がわからなければ教える。
- ・グループごとに、選んだ持ち出し品と、それを何に使うか、どうしてそれを選んだか (優先順位が高いと考えたか) を発表する
 - 留** 正否判定はしない。(薬、赤ちゃん用ミルクなど、人によって異なる)
 - 発** 用意が可能であれば、5キロ程の米や水などを入れたリュックを用意して、実際に背負う体験も面白い。

準備しておきたいものリスト
(防災ハンドブック)

- ・「準備しておきたいもの」リスト配布。一緒に見て、足りないものはないか考えたりして、再確認する。持ち出し品と備蓄品の違いを説明。
 - 参** 防災ハンドブック p.22~にも記載がある。吹田市のHPからも見られる。

- ・ 防災ハンドブックの地図 (p. 32～) を見て、避難場所を確認する。吹田市民でない場合、自分の避難場所を帰宅してから確認するよう伝え、ここではほかの学習者と一緒に活動する。
- ・ 避難地 (一時避難する所) と避難所 (家に帰れない時に当面の間生活する所) の違いを説明する。
- ・ いざというときに助けてくれる、頼れる日本人が近くにいるかどうか聞いてみる。そういう人がいないという学習者がいたら、近所の人と顔見知りになるにはどうしたらいいか、全員で考えてみる。
- ・ 助けを求める言い方: 「助けて!」「助けてください」「どこへ行ったらいいですか」などを紹介し、練習してみる。
- ・ 家族と決めておくべきこと: 家族とこのような相談したことがあるか聞く。他に相談しておくべきものがあるか考える。災害伝言ダイヤルを知っているか聞く。一人暮らしの場合は、誰に連絡すべきか考える。

活動3

- ・ ○×クイズ: ○、×の意味を確認。国によっては○=×、✓などが使われる。
(○) テーブルの下に入ります。 = 体を守る。日本人は学校などで防災訓練を行っていることを紹介する。(防災訓練について本編右下に記載あり。)
- ・ (○) 料理していたら、火を消します。 = 火事を起こさない。
- ・ (○) ドアや窓を開けます。・揺れが大きい場合は、大きい揺れがおさまってから、火を消す、ドアを開ける。= 出口を確保する。
- ・ (○) テレビやラジオで、津波が来るかどうか確かめます。・テレビ・ラジオ・携帯電話の警報の見方を知らせる。
- ・ (×) 靴を履いていない時、そのまま急いで逃げます。
- ・ (×) 階段は危ないので、エレベーターを使って逃げます。
- ・ (×) 車で逃げます。
- ・ (×) 建物や塀のそばを通過して逃げます。・倒壊に注意
- ・ (○) 逃げる時、かばんなどで頭を守ります。・落下物に注意
- ・ すべての項目について、その理由を一緒に考える。

活動4

防災カード

- ・ 防災カードを書く手助けをする。希望者に家族分の防災カードを配布する。

留 (全体的な留意点) 恐怖心をあおらないこと。

震度3～5なら、避難の必要はまずないこと、揺れは必ずおさまるものであること、また、地震はいつ起こるかかわからないが、気にしすぎないで日常生活を送ることを伝える。

(DVD)

発 DVD (2)「地震に備えよう」を観る(10分)。時間が許せば(1)「地震が起こったら」(10分)も。

発 用意が可能であれば、乾パンを食べる体験なども面白い。